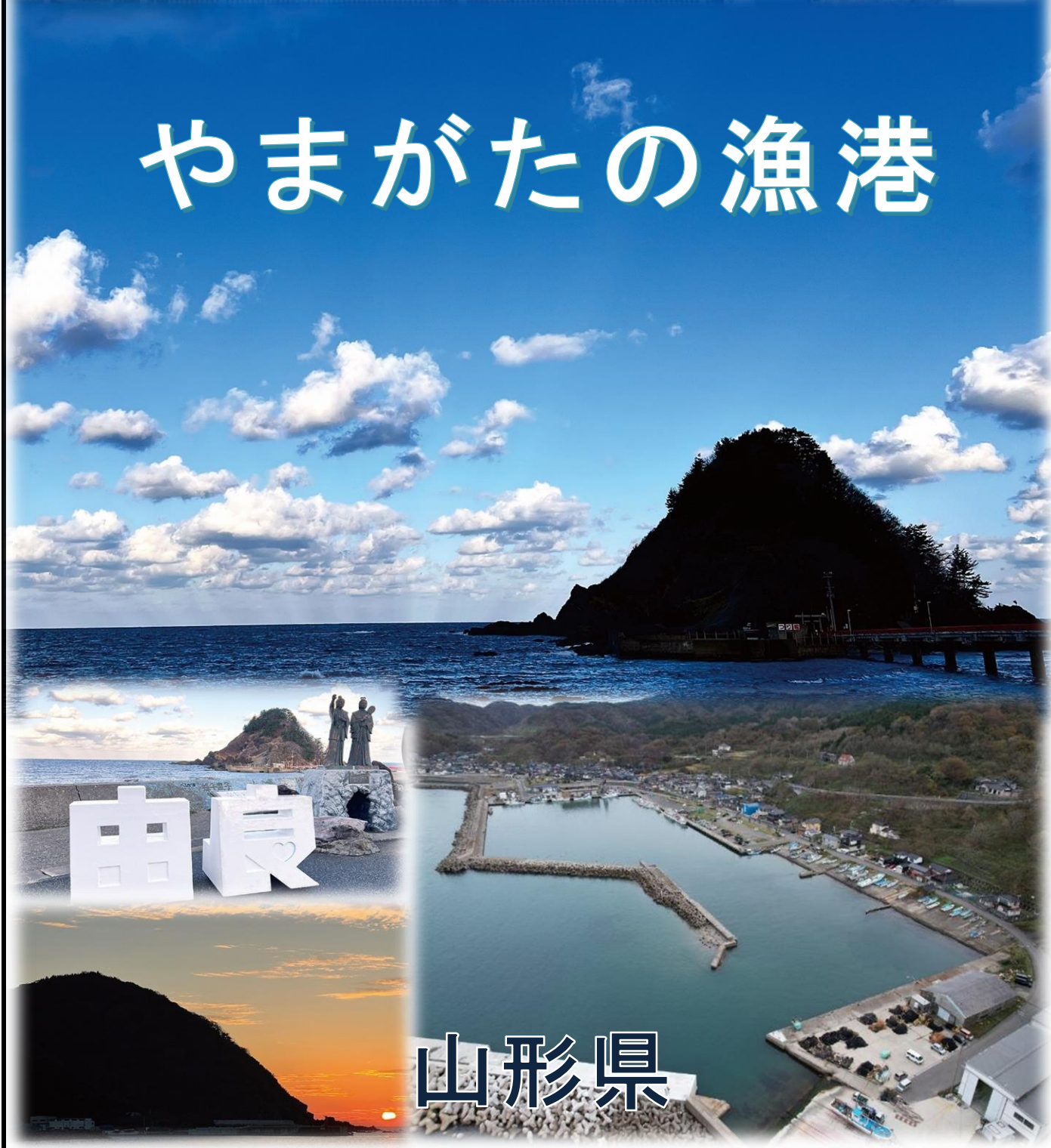




# やまがたの漁港



山形県

# 漁港位置圖



# 漁港一覽表

漁港名	種別	所在地	管理者	ページ
<small>とびしま</small> 飛島漁港	第4種	酒田市飛島	山形県	3
<small>ゆら</small> 由良漁港	第2種	鶴岡市由良	山形県	5
<small>かたのりざわ</small> 堅苔沢漁港	第2種	鶴岡市堅苔沢	山形県	6
<small>ふくら</small> 吹浦漁港	第1種	飽海郡遊佐町吹浦	山形県	7
<small>こばと</small> 小波渡漁港	第1種	鶴岡市小波渡	山形県	8
<small>よなご</small> 米子漁港	第1種	鶴岡市温海	山形県	9
<small>めが</small> 女鹿漁港	第1種	飽海郡遊佐町吹浦	遊佐町	10
<small>あぶらと</small> 油戸漁港	第1種	鶴岡市油戸	鶴岡市	11
<small>さんぜ</small> 三瀬漁港	第1種	鶴岡市三瀬	鶴岡市	12
<small>すず</small> 鈴漁港	第1種	鶴岡市五十川	鶴岡市	13
<small>くれつぼ</small> 暮坪漁港	第1種	鶴岡市温海	鶴岡市	14
<small>おんぶく</small> 温福漁港	第1種	鶴岡市温海	鶴岡市	15
<small>おおいわがわ</small> 大岩川漁港	第1種	鶴岡市大岩川	鶴岡市	16
<small>こいわがわ</small> 小岩川漁港	第1種	鶴岡市小岩川	鶴岡市	17
<small>わさだ</small> 早田漁港	第1種	鶴岡市早田	鶴岡市	18

## ※漁港の種別について

- 第1種漁港 : その利用範囲が地元の漁業を主とするもの
- 第2種漁港 : その利用範囲が第1種漁港よりも広く、第3種漁港に属しないもの
- 第3種漁港 : その利用範囲が全国的なもの
- 第4種漁港 : 離島その他辺地にあつて漁場の開発又は漁船の避難上特に必要なもの

※各漁港の数値は、令和3年の港勢調査による

とびしまぎよこう  
飛島漁港



- 所在地 : 酒田市飛島
- 漁港種別 : 第4種
- 漁港指定 : 昭和26年7月10日
- 管 理 者 : 山形県
- 関係漁協(支所) : 山形県漁業協同組合(さかた総合市場)
- 主 な 魚 種 : さざえ、くろまぐろ、いか類、めばる類、ぶり類



○くろまぐろ

● 沿 革

飛島は酒田港から北西39kmの日本海に浮かぶ面積2.5km<sup>2</sup>、周囲12km、海拔50mの平坦な台地状の小島で、山形県唯一の離島です。人口は174人、世帯数112世帯(R4.3)で、住民の多くは漁業を営んでいます。

飛島漁港は勝浦、中村、法木の3集落があり、それぞれに漁港施設が配置されています。

漁港の整備は昭和26年以降、断続的に施設整備を行っています。



○昭和48年当時の飛島漁港(勝浦・中村)

- 漁港地区人口 : 174人、組合員総数 : 93人
- 登録漁船数 : 87隻、利用漁船数 : 90隻
- 陸揚量 : 76.7t、陸揚金額 : 56百万円

## 勝浦地区

人口87人 58世帯 (R4年3月末)



## 中村地区

人口46人 28世帯 (R4年3月末)



## 法木地区

人口41人 26世帯 (R4年3月末)



# ゆ ら ぎ よ こ う 由 良 漁 港



- 所在地 : 鶴岡市由良
- 種別 : 第2種
- 指定期 : 昭和26年7月10日
- 管理者 : 山形県
- 関係漁協(支所) : 山形県漁業協同組合  
(由良総括支所)
- 主な魚種 : たら類、いか類、あじ類、ぶり類、はたはた、さけ・ます、かれい類



○定置操業

● 沿革

本漁港は鶴岡市の中心部から14km西方にあり庄内海岸のほぼ中央に位置しています。当地においては白山島の地形を利用したため、漁業の発展も目覚ましく、沖合漁業の中核港として発展してきました。

漁港整備としては、昭和7年、白山島に防波堤を築造し船だまりとして利用されたのが始まりで、その後、漁船の大型化や増加に対応するため施設整備を進めてきました。

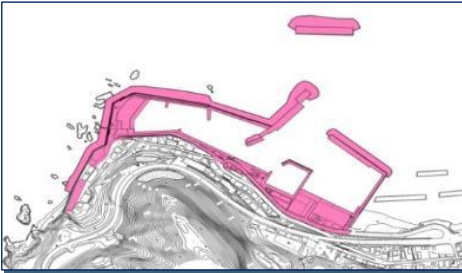
平成20年に緑地、広場及び駐車場等の整備が完成し現在に至っています。

- 漁港地区人口927人、組合員総数143人
- 登録漁船数：69隻、利用漁船数：75隻
- 陸揚量543.3t、陸揚金額：292百万円

○昭和26年当時の由良漁港の風景



# かたのりざわぎょこう 堅 苔 沢 漁 港



- 所在地 : 鶴岡市堅苔沢
- 漁港種別 : 第2種
- 漁港指定 : 昭和26年11月14日
- 管理 : 山形県
- 関係漁協(支所) : 山形県漁業協同組合(豊浦支所)
- 主な魚種 : ぶり類、たら類、いか類、さけ・ます、かれい類



○底びき網漁

## ● 沿革

本漁港は鶴岡市海岸のほぼ中央に位置する波渡崎にあり、景勝地として知られています。港の起源は大正5年に石積防波堤を築造したのが始まりですが、泊地、用地等が狭隘であったため施設を拡張し、沖合漁業及び沿岸漁業の根拠港として整備を進めてきました。

平成26年に西防波堤の越波防止及び静穏度の確保を図るための防波堤嵩上げ及び消波ブロックの整備が完成し現在に至っています。

- 漁港地区人口324人、組合員総数46人
- 登録漁船数 : 28隻、利用漁船数 : 32隻
- 陸揚量297.3t、陸揚金額146百万円

○昭和26年当時の堅苔沢漁港の風景



# 吹 浦 漁 港



- 所在地 : 飽海郡遊佐町吹浦
- 漁港種別 : 第1種
- 漁港指定 : 昭和26年7月10日
- 管理 : 山形県
- 関係漁協(支所) : 山形県漁業協同組合(吹浦支所)
- 主な魚種 : たら類、ひらめ・かれい類、いわがき、いか類



○漁港区域でのカヌー教室

## 沿革

本漁港は、庄内海岸の北側にあり、二級河川月光川の河口に位置しています。古くから鮭漁の盛んな所であり、沿岸漁業及び沖合漁業の根拠港になっています。

従来から月光川の河口港として利用されてきましたが、その後、漁船の大型化に対応するため、月光川左岸の海浜地に新港整備を進めてきました。

平成29年に漂砂による航路の著しい埋没を解消するための西第2防波堤の延伸工事が完成し現在に至っています。

- 漁港地区人口1,460人、組合員総数116人
- 登録漁船数：36隻、利用漁船数：37隻
- 陸揚量108.8t、陸揚金額72百万円)



○昭和48年当時の吹浦漁港



# こ ば と ぎ よ こ う 小 波 渡 漁 港



- 所在地 : 鶴岡市小波渡
- 漁港種別 : 第1種
- 漁港指定 : 昭和27年12月29日
- 管理 : 山形県
- 関係漁協(支所) : 山形県漁業協同組合(豊浦支所)
- 主な魚種 : たい類、さわら、さざえ、くろまぐろ

## ● 沿革

本漁港は、鶴岡市の市街地から南西約17kmの地点に位置しています。

漁港整備としては、大正12年頃における漁業不振の救済策として実施されたものが始まりで、その後、漁船の大型化や増加に対応するため新港整備に着手しました。

平成6年に管理者を山形県に変更してからも施設整備を進め、平成15年に防波堤の整備を完了し現在に至っています。

- 漁港地区人口347人、組合員総数46人
- 登録漁船数：28隻、利用漁船数：27隻
- 陸揚量20.1t、陸揚金額19百万円



○小波渡漁港海岸からの夕焼け



○昭和48年当時の小波渡漁港

# よなごぎょこう 米子漁港



- 所在地：鶴岡市温海
- 漁港種別：第1種
- 漁港指定：昭和26年11月14日
- 管理者：山形県
- 関係漁協（支所）：山形県漁業協同組合（念珠関総括支所）
- 主な魚種：さわら、たい類、くろまぐろ、さざえ



## 沿革

本漁港は、かつては岩礁海岸の自然の入り江を利用した小漁港でしたが、漁船の大型化や周辺漁港の機能集約に対応するため新港整備に着手しました。

昭和58年に管理者を山形県に変更してからも施設整備を進めて、平成23年度に西防波堤の潜堤を完了し現在に至っています。

- 漁港地区人口40人、組合員総数10人
- 登録漁船数：7隻、利用漁船数：13隻
- 陸揚量：23.4t、陸揚金額29百万円



○昭和26年当時の米子漁港

# 女 鹿 漁 港



- 所在地 : 飽海郡遊佐町吹浦
- 漁港種別 : 第1種
- 漁港指定期 : 昭和29年10月30日
- 管理 : 遊佐町
- 関係漁協(支所) : 山形県漁業協同組合(吹浦支所)
- 主な魚種 : さけ・ます、いわがき、なまこ



## 沿革

本漁港は、秋田県境に近接する本県最北の漁港で、沿岸漁業の根拠地として利用されています。

昭和5年に地元の方々と吹浦村(当時)が事業主体となり、防波堤と船揚場を建設し、小型漁船に利用されてきました。

その後、昭和37～38年度及び昭和49～50年度に整備が行われ、現在に至っています。

- 漁港地区人口148人、組合員総数30人
- 登録漁船数：8隻、利用漁船数：7隻
- 陸揚量10.5t、陸揚金額：16百万円)



○昭和48年当時の女鹿漁港

あぶら と ぎよ こう  
**油 戸 漁 港**



- 所在地 : 鶴岡市油戸
- 漁港種別 : 第1種
- 漁港指定 : 昭和26年11月14日
- 管理 : 鶴岡市
- 関係漁協(支所) : 山形県漁業協同組合(由良総括支所)
- 主な魚種 : たい類、ひらめ・かれい類、たこ類、さざえ



● 沿革

本漁港は、地方港湾加茂港の南西約3kmの地点に位置し、子持鼻崎と鉄砲崎で湾が形成されています。背後に油戸炭鉱があったことから、藩政時代は佐渡金山で精錬用に用いる粘結炭の搬出等に利用されてきましたが、佐渡金山の閉山や加茂港の発展により、現在は漁港として利用されています。

平成14～15年度には北防波堤の改良が行われ、現在に至っています。

- 漁港地区人口188人、組合員総数27人
- 登録漁船数 : 7隻、利用漁船数 : 5隻
- 陸揚量30.3t、陸揚げ金額 : 20百万円)

○昭和26年当時の油戸漁港



さん ぜ ぎょ こう  
**三 瀬 漁 港**



- 所在地 : 鶴岡市三瀬
- 漁港種別 : 第1種
- 漁港指定 : 昭和27年12月29日
- 管理 : 鶴岡市
- 関係漁協(支所) : 山形県漁業協同組合(豊浦支所)
- 主な魚種 : ばい貝、もずく類



● 沿革

本漁港は、鶴岡市街地の南西部に位置し、鯨ヶ崎～立岩間の岩礁海岸にある漁港です。

大正7年に岩盤を掘削した泊地が整備され、昭和8～9年に防波堤と船揚場が整備されました。その後、昭和53～54年度、平成6～8年度、平成20～21年度に施設整備が行われ、現在に至っています。

- 漁港地区人口1,261人、組合員総数18人
- 登録漁船数：12隻、利用漁船数：1隻
- 陸揚量：0.5t、陸揚金額：0.1百万円



○昭和26年当時の三瀬漁港

# すずぎよこう 鈴 漁 港



- 所在地：鶴岡市五十川
- 漁港種別：第1種
- 漁港指定：昭和27年12月29日
- 管理者：鶴岡市
- 関係漁協（支所）：山形県漁業協同組合（念珠関総括支所）
- 主な魚種：さざえ、もずく類、めばる類

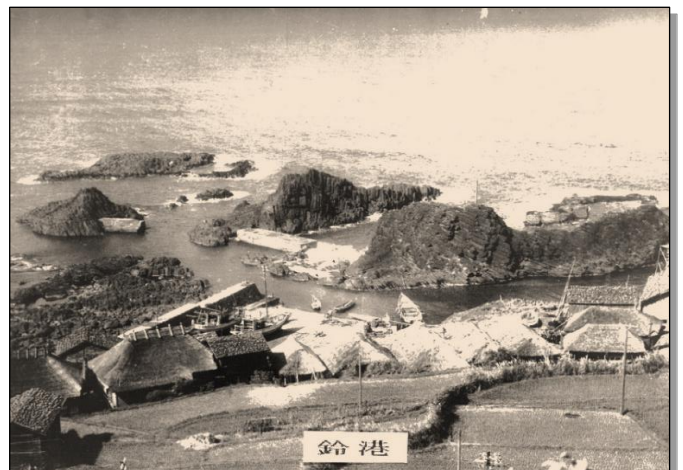


## ● 沿革

本漁港は、鶴岡市海岸のほぼ中央に位置し、自然の巨岩四ヶ島の陰にある小漁港です。

昭和8～9年に防波堤が建設されました。その後、昭和39年度、平成元～12年度及び平成25年度に防波堤が延伸され、現在に至っています。

- 漁港地区人口128人、組合員総数36人
- 登録漁船数：13隻、利用漁船数：6隻
- 陸揚量2.8t、陸揚金額：3百万円



○昭和26年当時の鈴漁港

# く れ つ ぼ ぎ よ こ う 暮 坪 漁 港



- 所在地：鶴岡市温海
- 漁港種別：第1種
- 漁港指定：昭和26年11月14日
- 管理者：鶴岡市
- 関係漁協（支所）：山形県漁業協同組合（念珠関総括支所）
- 主な魚種：いわがき、さざえ、い貝



## ● 沿革

本漁港は、鶴岡市海岸の南部に位置し、沿岸漁業の根拠地として利用されています。

昭和7～8年に防波堤及び船揚場が建設されました。その後、昭和14年に防波堤の延伸が行われ、現在に至っています。

- 漁港地区人口124人、組合員総数26人
- 登録漁船数：8隻、利用漁船数：3隻
- 陸揚量1.4t、陸揚金額：1百万円



○昭和48年当時の暮坪漁港

おん ぶく ぎょ こう  
温 福 漁 港



- 所在地：鶴岡市温海
- 漁港種別：第1種
- 漁港指定：昭和26年11月14日
- 管理者：鶴岡市
- 関係漁協（支所）：山形県漁業協同組合（念珠関総括支所）
- 主な魚種：さざえ、もずく類、い貝



● 沿革

本漁港は、温海地区の中心地に位置し、岩礁海岸の地形を利用した漁港です。

昭和8年に防波堤、船揚場及び泊地が建設されました。その後、昭和48～49年度に防波堤の延伸が行われ、現在に至っています。

- 漁港地区人口555人、組合員総数45人
- 登録漁船数：16隻、利用漁船数：9隻
- 陸揚量5.4t、陸揚金額：3百万円



○昭和26年当時の温福漁港



# お お い わ が わ ぎ よ こ う 大 岩 川 漁 港



- 所在地：鶴岡市大岩川
- 漁港種別：第1種
- 漁港指定：昭和27年12月29日
- 管理者：鶴岡市
- 関係漁協（支所）：山形県漁業協同組合（念珠関総括支所）
- 主な魚種：さざえ、いわがき、い貝、ぶり類



● 沿革

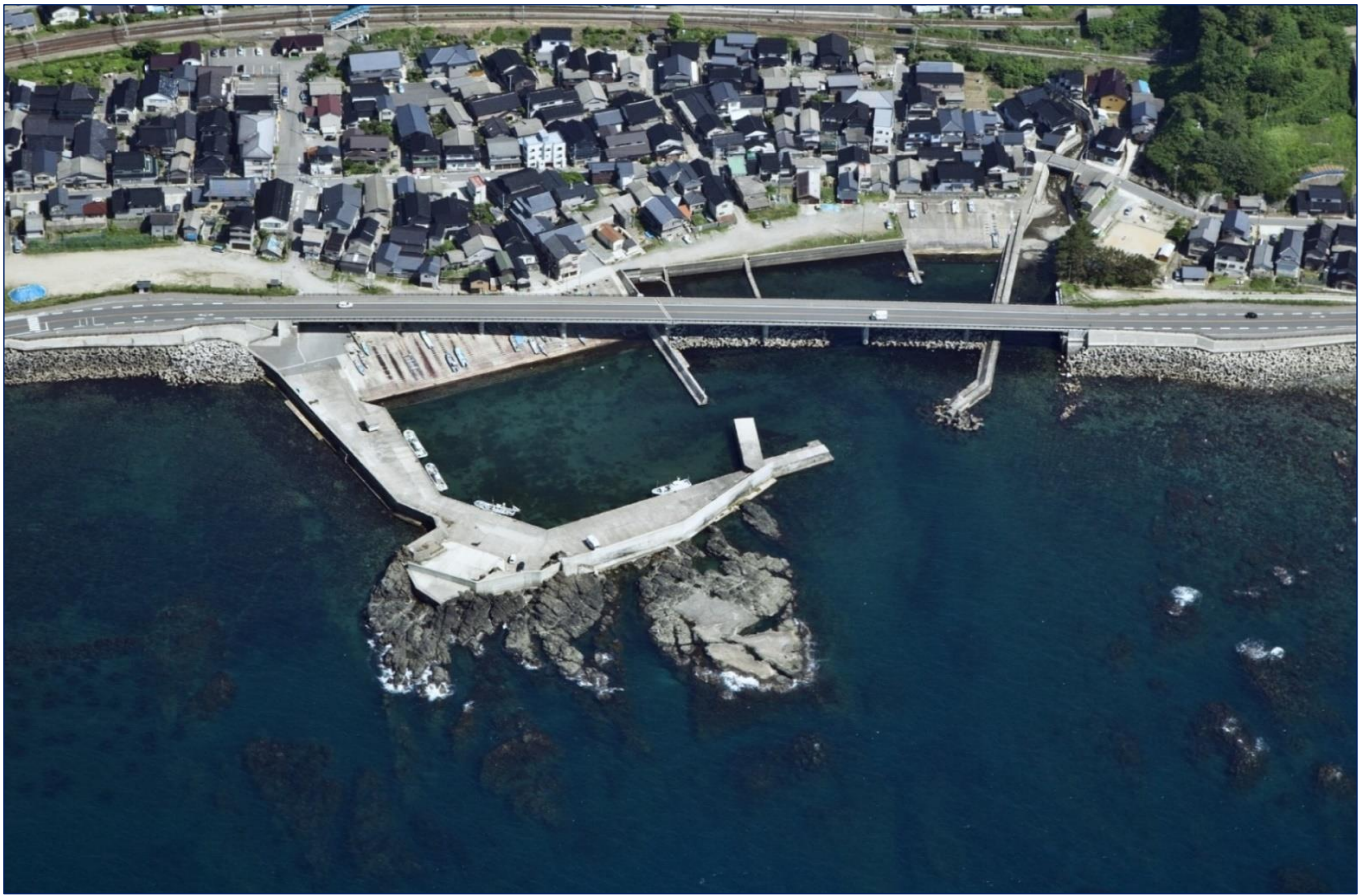
本漁港は、鶴岡市海岸の南部に位置し、大小多数の岩礁に囲まれた漁港です。  
昭和7年に防波堤、船揚場及び泊地が建設されました。その後、昭和48～49年度に防波堤の延伸、平成24～令和元年度に防波堤の改良が行われ、現在に至っています。

- 漁港地区人口405人、組合員総数17人
- 登録漁船数：26隻、利用漁船数：17隻
- 陸揚量：8.9t、陸揚金額：6百万円



○昭和26年当時の大岩川漁港

# こ いわ が わ ぎ よ こう 小 岩 川 漁 港



- 所在地：鶴岡市小岩川
- 漁港種別：第1種
- 漁港指定：昭和26年7月10日
- 管理者：鶴岡市
- 関係漁協（支所）：山形県漁業協同組合（念珠関総括支所）
- 主な魚種：さわら、たい類、さざえ、くろまぐろ、あかむつ
- 沿革



本漁港は、鶴岡市海岸の南部に位置し、平島、立島の陰に泊地がある漁港です。

昭和7～8年及び昭和25～36年度に漁港整備が行われました。平成17～18年度には、越波の解消及び静穏度の確保を図るため護岸の嵩上が行われ、現在に至っています。

- 漁港地区人口369人、組合員総数41人
- 登録漁船数：26隻、利用漁船数：14隻
- 陸揚量15.7t、陸揚金額：18百万円

○昭和26年当時の小岩川漁港



わ さ      だ      ぎ よ      こ う  
**早 田 漁 港**



- 所在地 : 鶴岡市温海字早田
- 漁港種別 : 第1種
- 漁港指定 : 昭和27年6月23日
- 管理 : 鶴岡市
- 関係漁協(支所) : 山形県漁業協同組合(念珠関総括支所)
- 主な魚種 : さざえ、い貝、さわら、くろまぐろ



● 沿革

本漁港は、本県最南の漁港で、地方港湾鼠ヶ関港の北約2kmの地点に位置しています。  
 昭和8～9年及び昭和25～36年度に漁港整備が行われました。平成15～16年度には、航路・泊地の安全性向上を図るため防波堤の嵩上が行われ、現在に至っています。

- 漁港地区人口332人、組合員数33人
- 登録漁船数：15隻、利用漁船数：7隻
- 陸揚量11.7t、陸揚金額：10百万円

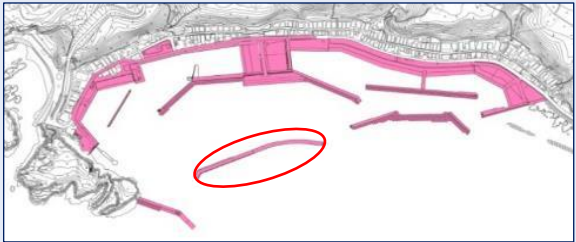
○昭和26年当時の早田漁港



# 漁港施設・漁場施設の整備

## 漁港施設機能強化事業

### 飛島漁港

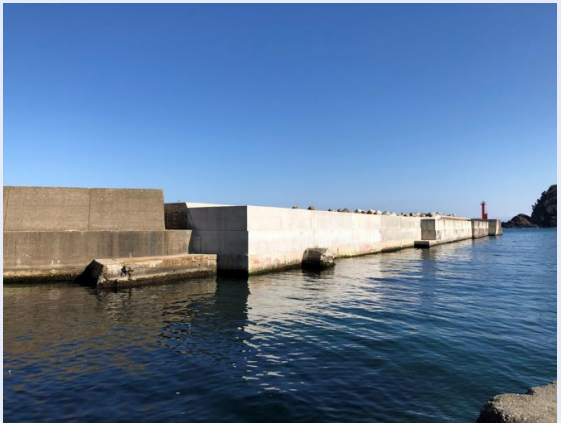
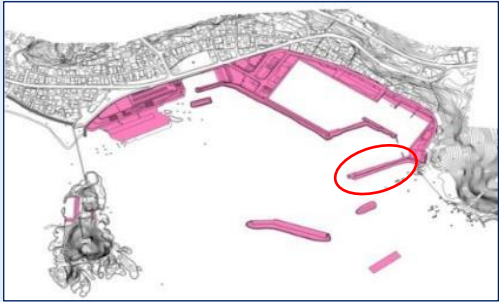


整備内容：岸壁を高波や津波から守る防波堤の整備



### 由良漁港

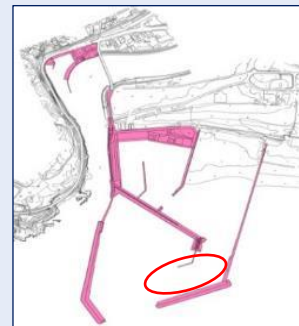
整備内容：岸壁を高波や津波から守る防波堤の整備



# 水産物供給基盤機能保全事業

## 吹浦漁港

整備内容：漁船の漁港内の航路を確保



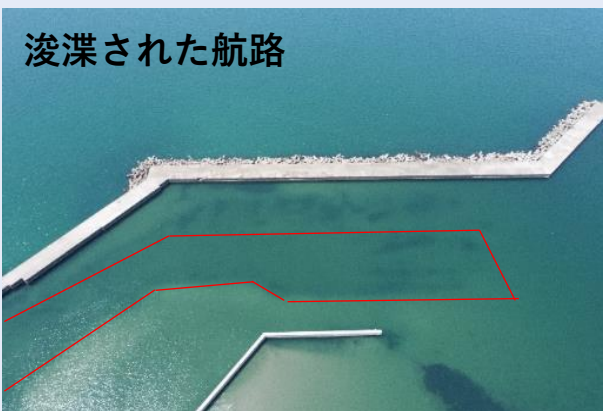
航路の浚渫



航路の浚渫



浚渫された航路



航行する漁船

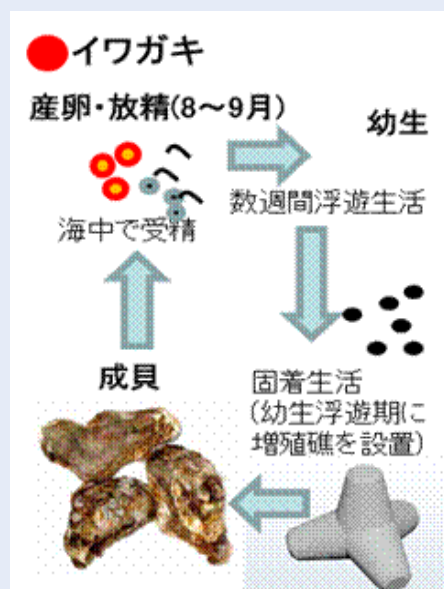


# 水産環境整備事業

## 鼠ヶ関港

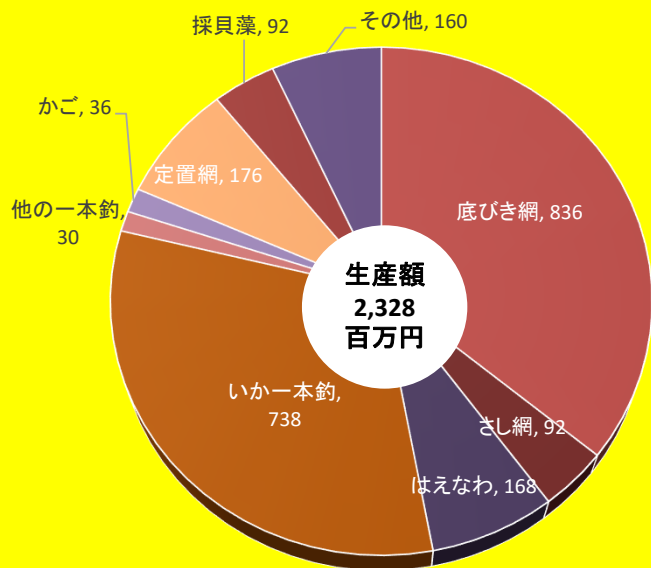
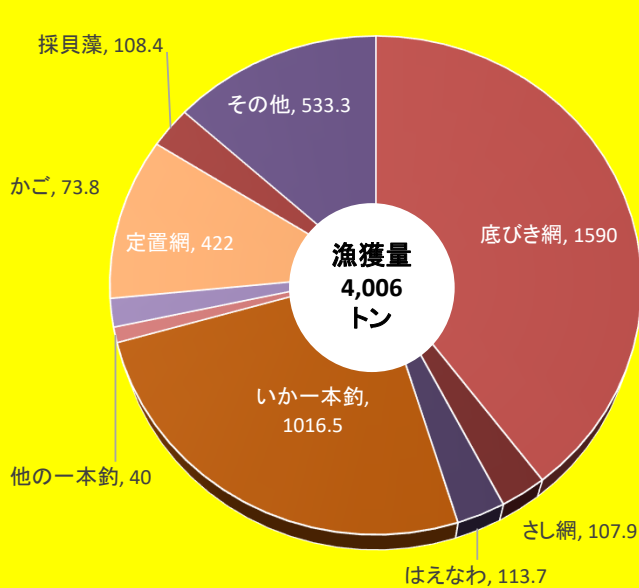
整備内容：イワガキの増殖礁の整備

設置された増殖礁

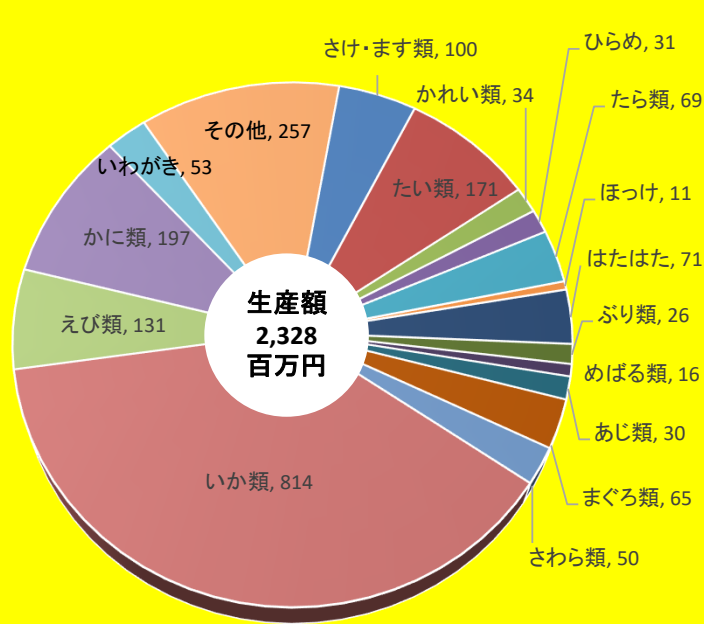
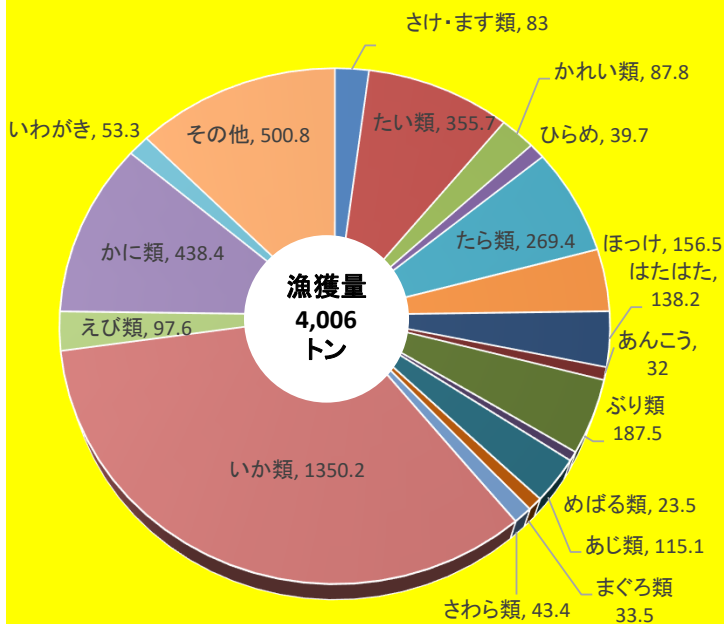


# 漁業種類別・魚種別年間漁獲量（令和3年）

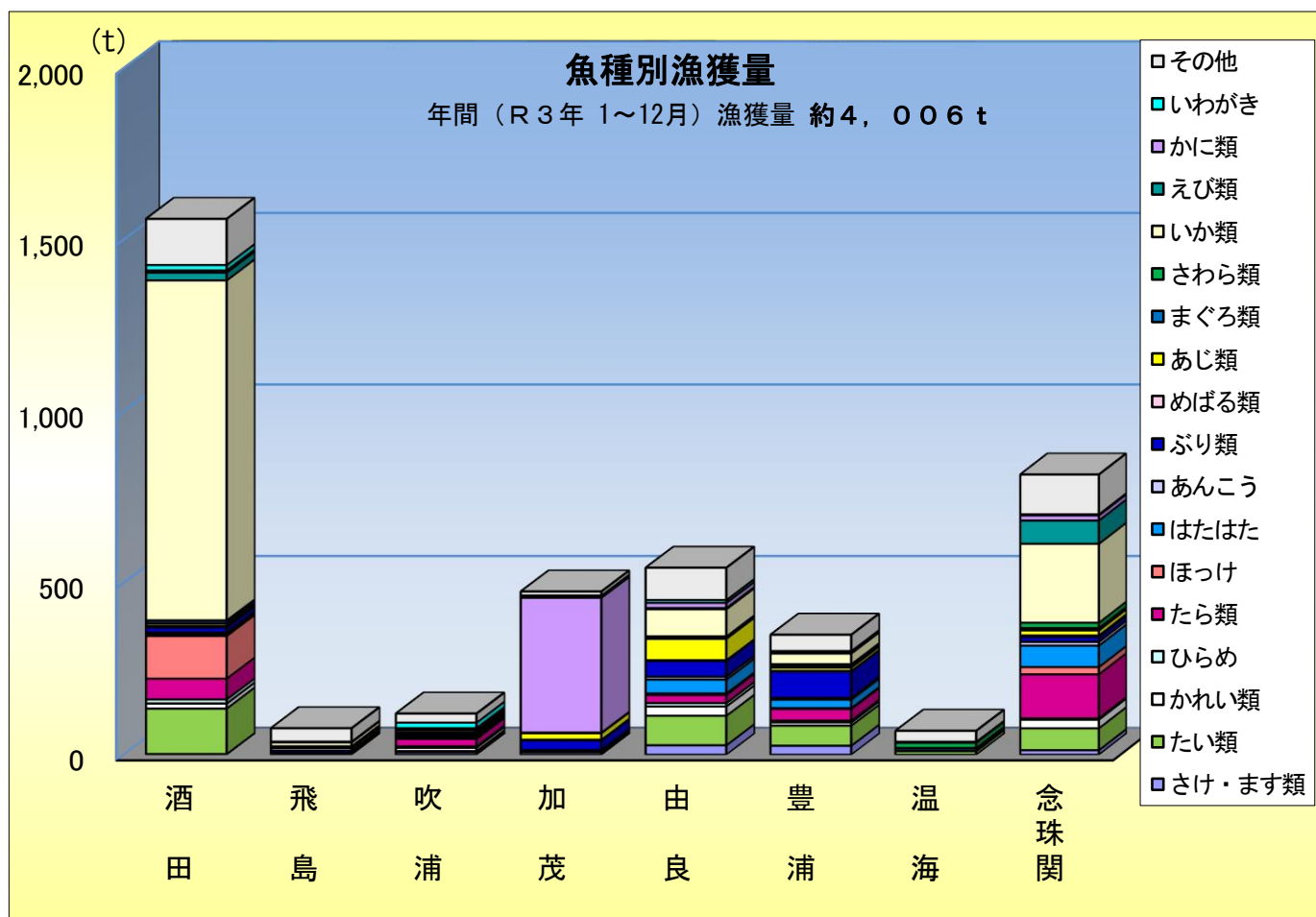
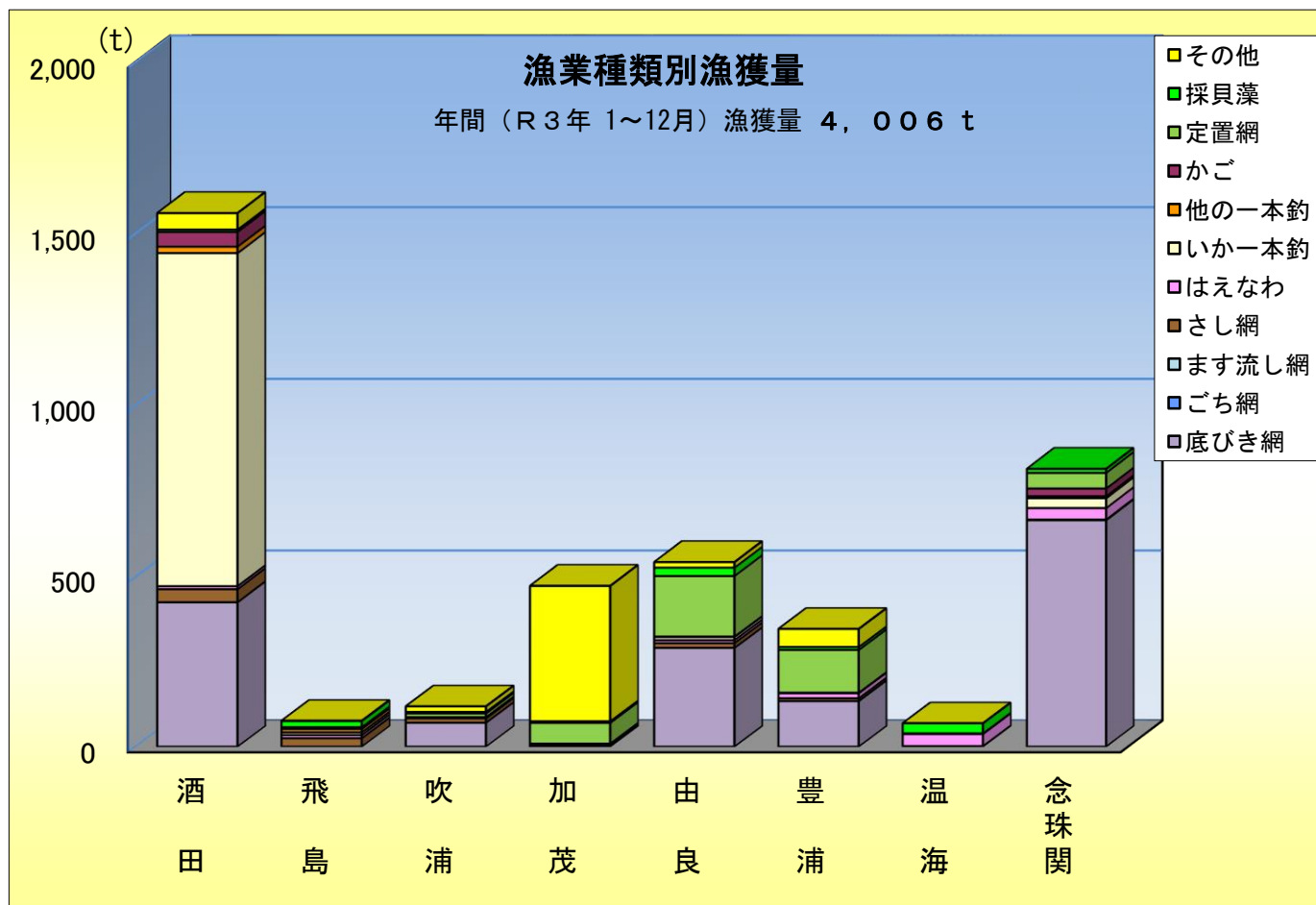
## 漁業種類別年間漁獲量及び生産額



## 魚種別漁獲量及び生産額



# 漁協支所別の漁業種類別・魚種別年間漁獲量（令和3年）



# 庄内浜の旬の魚と郷土料理



写真：ゆらまちっく海鮮レディース提供

## 旬の料理・サクラマスのあんかけ

山形県魚に制定されている「サクラマス」は、春に生まれた川に戻ってきます。桜が咲く頃に帰ってくることや身の色が桜色であることからこの名がついたと言われています。

旬に獲れたものは脂がのって、身は柔らかく、庄内の食卓や春祭りには欠かせません。

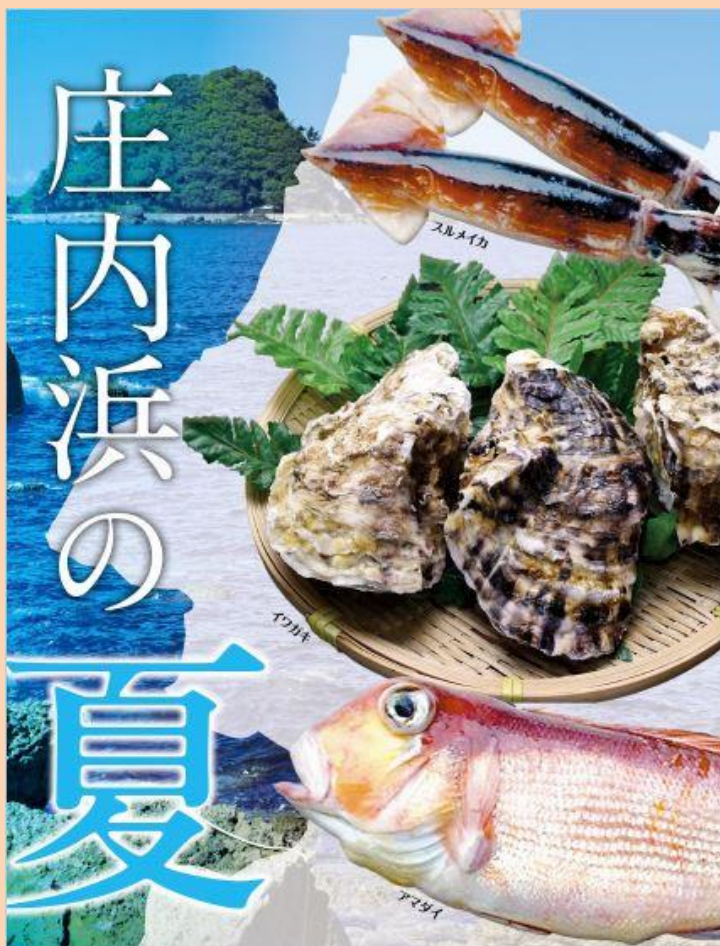


## 旬の料理・いかそうめん

「スルメイカ」は、山形県の漁獲量の約半数を占め、水揚げ量・金額ともにNo.1です。

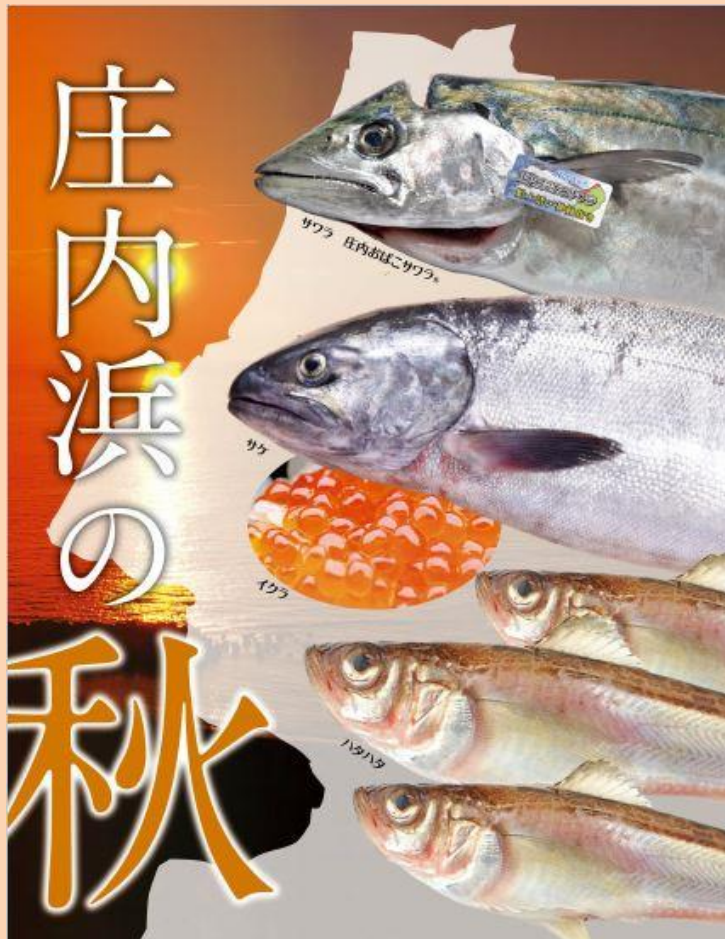
庄内では「夏イカ」とも呼ばれ、6月から7月にかけてが旬の味覚です。

暖かい南の海で生まれた「スルメイカ」は、日本海を北上しながら成長し、初夏に庄内沖を通過するのは、成長途中の若い「スルメイカ」なので、身が柔らかいです。





# 庄内浜の旬の魚と郷土料理



写真：ゆらまちっく海鮮レディース提供

## 旬の料理・ハタハタの味噌田楽

昭和40年代まで猫またぎと呼ばれるほど獲れましたが、今では高級魚となりました。

毎年12月9日に行われる庄内地方の伝統行事「大黒様のお歳夜」ではハタハタの味噌田楽など豆づくしの料理を大黒様に供え、豊作と子孫繁栄を祈願します。



## 旬の料理・<sup>かん</sup>寒ダラ(どんがら)汁

庄内地方では、寒さが厳しい冬に水揚げされるマダラを「寒ダラ」と呼び、頭から尾まで余すところなく味わいます。

寒ダラを丸ごと鍋にして味わうものを「寒ダラ汁」、身を入れずアラや内臓のみで仕立てるものを「どんがら汁」といいます。



# 庄内浜のブランド魚

## 庄内おばこサワラ



脂の乗りが良く、刺身でも熱を通して美味しくいただける庄内浜のサワラ。DHAやEPA、ビタミンを豊富に含み、健康に良い魚です。おばこサワラは、独自の活メと神経抜きの技術により、一般的なサワラより長い7～10日間もの間、高鮮度を維持できるようになりました。熟成されたサワラは旨みが増加し、より一層おいしく味わうことができます。

## 庄内北前ガニ



庄内浜では有名産地より一足早く、10月からズワイガニ漁が解禁されます。1.出荷時点で活ガニであること 2.重さが700g以上であること 3.キズ、足キレがないこと 4.ミスガニ(脱皮直後)でないこと 5.雄ガニであること 6.10～1月に底曳で漁獲したもの 以上の条件をクリアしたものを庄内北前ガニとしてブランド化しており、更に「重さが1kg以上であること」、「甲羅幅が13cm以上であること」の厳しい基準を満たした最高品質のズワイガニを「特選」としています。

# 天然とらふぐ



庄内浜の天然とらふぐは、主にはえなわ漁で魚体に傷を付けないように丁寧に釣り上げられます。獲れたトラフグは一尾ずつ、浮袋の空気を抜き、噛み合いを防ぐため、歯をニッパーで切ります。その後もすぐに出荷するのではなく、水槽に移した後に胃に入っているものがなくなり、体力を回復させた後にやっと出荷となります。本県では栽培漁業(ある程度育てた魚を放流して自然の力で食用サイズまで育てること)で育てた稚魚を放流し、安定した漁獲量を確保しています。

# イカ類 (デビュー準備中)



スルメイカは酒田港における水揚量の約7割を占める重要な水産物であり、山形県を代表する魚種です。スルメイカ以外ではヤリイカ、アオリイカ、近年はケンサキイカなど、年間を通して様々な種類のイカが漁獲されます。しかし、来遊が不安定であることや燃料費の高騰など漁家経営を取り巻く環境は厳しさを増しています。そこで、本県では県内漁業者と連携し、各種のイカに適した船上での管理方法や水揚げ方法を確立することを目標に「活イカ」の試験出荷を実施し、ブランド化に取り組んでいます。

# 庄内浜のブランド魚

# 浜文化の伝承者「庄内浜文化伝道師」

山形県の庄内浜では約130種類もの魚介類が水揚げされていて、季節ごとに様々な旬の地魚を楽しむことができます。しかし水産物の流通や販売方法の変化、消費者の食生活の変化などから、地魚に触れる機会が減少し、庄内地方でも地魚の種類、旬、さばき方、何より「おいしさ」を知らない人が増えてきました。

このような現状をふまえ、山形県では、2007年に「庄内浜文化伝道師」制度を導入。現在、認定された268人が地魚の美味しさや食文化を伝える活動をしています。伝道師は飲食店の料理長、魚市場の仲買人や鮮魚店、会社員や主婦など様々。庄内浜産魚介類やその料理方法および浜の文化について、「庄内浜文化伝道師講座」や地元エフエムラジオでの情報発信、各種イベントやお祭り等における庄内浜のPRや地魚料理の提供、魚のさばき実演、トークイベントに参加するなどして地魚の消費拡大や魚食普及を図っています。



庄内浜文化伝道師協会HP  
「庄内浜文化伝道師館」



伝道師協会Instagram  
「伝えます!庄内浜の味と技」



伝道師協会Facebook  
「伝えます!庄内浜の味と技」





# 浜の出来事



庄内浜で  
獲れる魚たち



# 海業事例：由良漁港（鶴岡市）

## 漁村生活における様々な体験の提供をとおした交流人口の拡大

### 概要

- 漁業就業者、観光客の減少による地域経済の衰退を抱え活気を失いつつあったこの地区では、整備された漁港や人工海浜、人工磯場などをうまく活用した地域再生を課題と捉えていた。
- 地元漁業者等の若手有志が、自治会や観光協会、漁業団体に呼びかけ、「再び訪れたくなる、住みたくなる、自慢したくなる“ゆら”」を目指し、由良地域協議会「ゆらまちっく戦略会議」を結成。生産・流通、人材育成・確保、文化の継承、イベント、情報発信などを展開。
- コロナ禍にあっても、年間で、漁業地区人口の約7倍を超える交流人口を創出。ファンとなった来訪者がリピーターとなり、友人知人に紹介したり、体験型教育旅行の需要も発現。水産加工品の販売増などにもつながる。

### 海業の取組概要



イカー夜干し作り体験



由良の11種類の  
漁法を伝えるDVD製作



定置網体験

【後継者の育成・確保と女性活躍】

### 【漁業生産・流通】



ゆらまちっくの  
ヒット商品  
「鯛だしみそ」

市場性の低い小鯛に注目  
新たな加工商品を開発

漁港や近隣の協力店  
などで販売

所得向上・雇用の創出



ゆらまちっく  
海鮮レディース

### マリンレジャー体験（釣り堀）



漁船クルージング



海中神輿



【伝統文化の継承】



寒鰯づくし定食

【各種イベントの開催】

### 主な取組

#### 【漁業生産・流通】

魚食イベント、水産加工品開発販売、水揚魚のブランド化など

#### 【後継者の育成・確保と女性活躍】

漁業体験、漁法DVD配布、地元女性による商品開発など

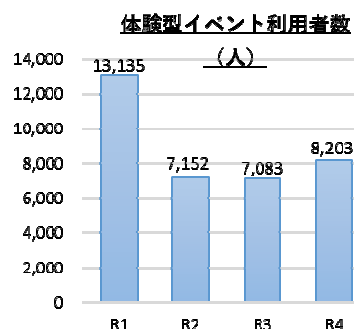
#### 【伝統文化の継承】

都市住民との交流、海中神輿など

#### 【各種イベントの開催】

寒鰯祭など魚食イベント、ビーチサッカー大会など

### 効果



コロナ禍による減少もあったが、体験型イベント（釣り堀・漁業体験・食の体験など）の利用者は年間7千人以上。

漁業地区人口の約7倍以上の交流人口を創出。（R2漁業地区人口：962人）



**山形県庄内総合支庁産業経済部水産振興課**

〒998-0838 山形県酒田市山居町二丁目14番23号

TEL: 0234-24-6161(代)

**令和5年12月**